

国立病院機構熊本医療センター

2014 No.199



くまびょうNEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市中央区二の丸1番5号
TEL (096) 353-6501(代)
FAX (096) 325-2519



新年の御挨拶

国立病院機構熊本医療センター

院長 河野 文夫

明けましておめでとうございます。旧年中は、多方面にわたりご指導、ご支援を賜りまして誠に有り難うございました。職員一同厚く御礼申し上げます。

世間ではアベノミクスの影響で、日本経済はやや上向いてきていると報道されていますが、地元熊本の経済復興はまだのように思います。一方、国際的には、隣国の韓国、中国との関係が益々悪化し、何とか今年こそ国際関係の改善を期待したいと思います。また、今年も、4月に診療報酬改定があり、過去2回のプラス改定から一転してマイナス改定が予想されています。そのような中、少しでもいい年になりますように職員一同努力したいと思います。

当院では、昨年末に、念願でありました病院機能評価を受審することができました。約1年かけて職員全員で取り組みました。医療の質を向上させるために受審したのですが、本当の改善はこれからだと思います。しかし、この受審を通じて獲得した中で、最も価値のあるのは、職員が一致団結したチームワークと、職域を超えた信頼関係の構築ではなかったかと思っています。

当院では、昨年4月に待望の熊本市消防局との救急ワークステーション事業が開始となり、当院の掲げる365日24時間全診療科で断らない救急医療の実践の強力な助けになりました。今後予想される急性期病床の機能の明確化、在宅医療の推進などをふまえて、急性期の病院として救急医療で一層お役に立てるように努力したいと思います。

本年は、現在の教育研修棟及び旧研修センター（売店、レストラン）に建設予定の新外来棟の設計を終え、建設工事に着手します。新外来棟には、教育研修宿泊施設、研修セミナー室のほか、外来部門を大幅に拡充し、レストラン・売店の大型化、喫茶室の入店、災害のための備蓄倉庫、自家発電機の設置などを考えております。工事が始まりますと、患者さんや先生方にまたご迷惑をおかけすることになると思いますが、どうかご理解とご協力をお願い致します。

本年が、先生方にとりまして実り多い1年となりますことをご祈念申し上げますとともに、本年もよろしくご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2014年元旦

基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、
良質で安全な医療を目指します。

運営方針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営

患者様の権利

1. 良質かつ適切な医療を公平にうける権利があります
2. ご自身の医療について理解しやすい言葉と方法で十分な説明と情報を受ける権利があります
3. 病院から説明と情報を得た上で、自らの意志で治療を受け、あるいは選択し、拒否する権利があります
4. 自分の診療記録の開示を求める権利があります
5. セカンド・オピニオンを求める権利があります
6. 個人としての人格の尊重とプライバシーの保護を受ける権利があります



医法) 社団元照会
大塚病院
院長 大塚 英二

皆様、明けましておめでとうございます。私は熊本市北区植木町で開業しております。消化器外科、一般外科、消化器内科、一般内科を標榜し、病床数は一般病床32床で24時間の時間外医療を含め、その他訪問診療を行い地域密着型病院を目指しております。その為熊本医療センターの先生方には時間を問

わずお世話になりこの紙面をお借りして感謝申し上げます。

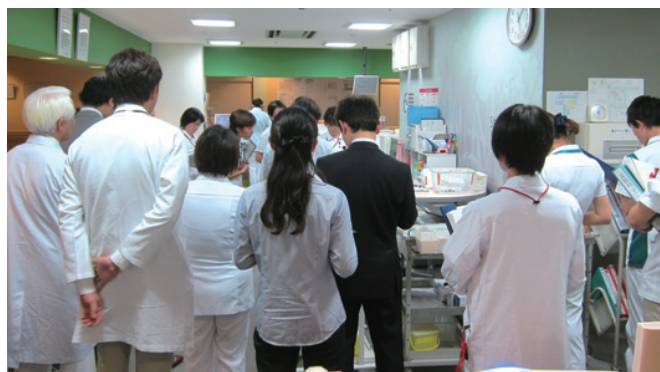
当院では、障害者支援施設に入所されている方も来院され、症状も十分に訴えられない事も多く病状の把握に苦戦する事もしばしばです。そういう患者様を熊本医療センターに紹介するとき、診療情報提供書の紹介状をFaxで送り、受診日と受診時間を予約して患者様が院内で待っている時間内に返事が来る為に大変助かっております。医療センターでの患者様の診察待ち時間も短い為、付き添いの方も喜んでおられます。

昨年はオリンピック招致の為のプレゼンテーションにての「お'も'て'な'し」の精神がブームとなりましたが、この診療日、診療時間の予約も「お'も'て'な'し」の一つであると考えています。私どもも今後「おもてなし」の精神を持って、今以上のサービスを心がけて診療に当たる為職員一同頑張りたいと思っています。

これからも時間外等にお願いする事も多い事と思いますが宜しくお願い申し上げます。最後に今まで以上に「お世話になります。」

病院機能評価訪問受審を終えました

平成25年12月4・5日に病院機能評価の本体訪問審査、6日に救急医療についての付加機能訪問審査が行われました。平成24年12月11日のキックオフ会議で全職員に向けて河野院長から正式に病院機能評価を受審することが宣言されてからほぼ1年後でした。



病院機能評価訪問受審の様子

当院にとって初めての病院機能評価受審、1年の短い準備期間、更に本年度から始まった「新たな評価項目体系」での審査、など受審を受けるには厳しい条件でしたが無事に審査を終了することが出来ました。訪問審査後に行われたサーベイヤーからの講評は概ね良い評価を得ることが出来ました。この厳しい条件で見事受審をやり遂げた、病院で働く全ての方々に感謝したいと思います。

(病院機能評価受審プロジェクト委員会

副委員長 豊永 哲至)



平成25年度 第2回開放型病院運営協議会が開催されました

国立病院機構熊本医療センター開放型病院運営協議会が12月5日に当院会議室にて開催されました。協議会には外部委員として、熊本市医師会会長の福島敬祐先生（委員長）、熊本市医師会副会長の加来裕先生、熊本市医師会理事の田中英一先生にご出席いただきました。河野院長の開会挨拶、福島委員長のご挨拶に引き続き議事に移りました。

先ず、事務局より地区別登録医数、開放型病院共同指導実績、くまびょうニュースの発行状況について報告がなされました。続いて、平成25年度第2回開放型病院連絡会の開催について協議が行われ、今年度は平成26年2月15日（土）午後6時30分より、当院の地域医療研修センター）で開催することが決定いたしました。開放型連絡会総会では、森永信吾小児科医長より「小児の骨髄移植について」、水上智之小児科医長からは「免疫不全症について」の症例呈示と病院からの連絡事項が行われ、厚生労働省医政局総務課保健医療技術調整官山本英紀先生による特別講演を予定しております。どうぞ多数の先生方、コメディカルスタッフ、看護師、MSW、事務の方々にもご参加いただきますようお願い申し上げます。（管理課長 中村 敦）



開放型病院運営協議会の様子

第36回 開放型病院連絡会のご案内

日時：平成26年2月15日（土）午後6時30分
場所：地域医療研修センターホール（当院2F）

－ 内容 －

1. 症例呈示
「小児の骨髄移植について」 小児科医長 森永 信吾
「免疫不全症について」 小児科医長 水上 智之
2. 病院からの連絡事項
3. 特別講演
厚生労働省医政局総務課保健医療技術調整官
山本 英紀 先生

【参加申込み先】

国立病院機構熊本医療センター管理課
電話 096-353-6501 内線2311（中村・富田）

平成25年度第2回

熊本市歯科医師会・国立病院機構熊本医療センター連絡協議会報告

平成25年度第2回熊本市歯科医師会・国立病院機構熊本医療センター連絡協議会が12月9日（月）午後7時より、当センター会議室で開催されました。熊本市歯科医師会からは宮本尚会長、渡辺猛士副会長、田中弥興副会長、高松尚史専務理事、有働秀一医療管理理事、高橋禎医療管理委員長に出席いただき、当院より河野院長、高橋副院長、片淵副院長、清川総括診療部長、原田救命救急科医長、中島歯科口腔外科部長が出席しました。

河野院長、宮本会長からの挨拶の後、議事に入ります。



連絡協議会の様子

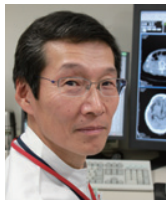
まず当院の歯科紹介率の議題では中島部長から、紹介率（35.1%）、紹介数ともにこれまでで最も多く推移していると報告されました。

次いで、当院の歯科救急医療についての議題では、原田医長より今年はずでに11月までで185件と例年以上に多く、特に義歯誤飲が11例（緊急手術5例）と多かったことが示されました。

続いて毎年好評で参加者の多い救急蘇生講習会について、来年度も11月13日（木）に開催されることと、さらに歯科関係の講演として医歯連携セミナー3回、熊本摂食・嚥下リハビリテーションセミナーが6回と講演会が1回開催されることが報告されました。

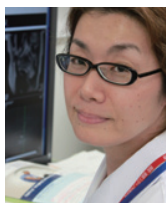
最後に高橋副院長から、平成25年度第2回国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会が2月15日（土）午後6時30分から、当院地域医療研修センターにて開催されることが案内されました。現在、進められているがん連携医科歯科連携事業をはじめとする歯科と医科との連携の重要性を今後も重要視することを確認して閉会となりました。

（歯科口腔外科部長 中島 健）



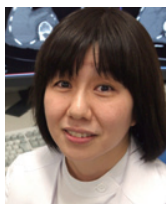
部長
吉松 俊治 (よしまつ しゅんじ)
画像診断一般、血管造影、インターベンショナルラジオロジー

日本医学放射線学会放射線診断専門医
熊本大学医学部臨床教授



医長
浅尾 千秋 (あさお ちあき)
画像診断一般

日本医学放射線学会放射線診断専門医



医長
伊藤 加奈子 (いとう かなこ)
画像診断一般

日本医学放射線学会放射線診断専門医
PET認定医

診療内容と特色

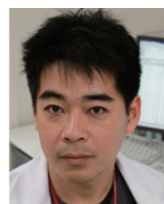
放射線科は画像診断センター（4F）と放射線治療センター（1F）があり、放射線診断専門医5名、放射線治療専門医1名、放射線専修医1名、放射線技師22名、看護師6名、放射線受付2名およびクラーク1名で運営しています。平成24年10月の新電子カルテシステム（富士通EG-MAIN GX）稼働時に、超音波・内視鏡画像を含む院内全画像の画像サーバ保存と心臓撮影の動画サーバ保存を行い、レポートや同意書等の医療文書の電子保存（e文書）を行いました。また、地域連携システム（りんどうネット）にて、院内の画像とレポートの参照が可能となっています。救急外来を含む全てのCT・MRI・核医学検査における画像診断報告書を翌診療日までに作成し、画像診断管理加算2を取得しています。平成26年1月よりMRIの3T装置（フィリップス社製Ingenia3.0T）が新規稼働いたします。

画像診断機器は、X線撮影装置（CR装置2台・FPD装置4台）、透視撮影装置（2台）、乳房撮影装置（1台）、全顎撮影装置（1台）、CT装置（128スライスCT1台・64スライスCT1台）、MRI装置（3T 1台・1.5T 1台）、血管撮影装置（心臓用1台・大視野用1台）およびSPECT対応型ガンマカメラ（1台）などがあります。院内はデジタル画像を全てフィルムレスで運用し、高精細モニターにて診断しています。歯科用デジタル口内撮影も画像サーバ保存になりました。放射線治療センターでは、高エネルギーのX線や電子線を利用して外照射を行っています。外照射装置は撮影機能も有しており、治療時と計画時の画像をモニター上で融合させ、僅かなずれも修正することができるため精度の高い治療が可能です。また、造血幹細胞移植のための全身照射を行っており、症例数は県内で最大です。婦人科系の治療では、イリジウム小線源を利用した腔内照射も実施しています。これらの治療には放射線治療専門医がたずさわっており、毎日の治療や装



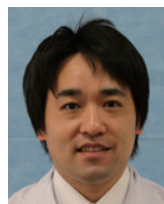
医長
富高 悦司 (とみたか えつし)
画像診断一般、放射線治療

日本放射線腫瘍学会共同認定放射線治療専門医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医



医長
根岸 孝典 (ねぎし たかのり)
画像診断一般、血管造影、インターベンショナルラジオロジー

日本医学放射線学会放射線診断専門医



医師
岩下 孝弥 (いわした こうや)
画像診断一般

日本医学放射線学会放射線診断専門医



医師
田上 昇太 (たのうえ しょうた)
画像診断一般

置性能管理には専門の診療放射線技師が行っています。平成26年3月よりヨウ素125シード線源永久挿入による前立腺癌密封小線源療法を開始予定です。

診療実績

平成24年度年間検査症例数はCT 24,688名、MRI7,040名、核医学検査755名、血管造影947名です。平成21年9月23日の新病院開院時よりマルチスライスCT2台（シーメンス社製Definition AS+とSensation64）が稼働しています。128スライスCTを用いて、冠動脈CTだけでなく、Adaptive 4D Spiral撮影法を用いた4次元CTによる血流動態評価が可能です。また、64スライスCTと2台をフル稼働することで、1日100名近いCT検査の大半を緊急対応しています。平成22年4月より外傷全身CT加算の施設基準を取得しています。

放射線治療について平成24年度は290名でうち新患が250名あり、一日25～30名の治療を行っています。大学放射線治療学講座と連携して放射線治療の質の向上に努力しています。子宮頸癌の腔内照射は県内で大学病院と2施設のみです。頭頸部癌、泌尿器科癌、乳癌およびケロイドの放射線治療症例も担当科と連携し集学的治療を行っています。

ご案内

外来検査予約は放射線科受付096(353)6501(代)（内線3201）に電話で予約した後、専用の画像検査予約ファックス送信票（診療情報提供書兼紹介状）を医事課へFAX（096-323-7601）をお願い致します。画像検査予約ファックス送信票および検査予約の手順と注意事項を病院ホームページに掲載しておりますのでご利用下さい。インターネット予約システム（カルナ）が本年度より稼働しました。専用の接続が必要ですので、詳しくは放射線科技師長まで問い合わせ下さい。冠動脈CTは脈拍低下の前投薬投与をしますので、循環器外来受診の予約をお願い致します。

放射線治療外来は予約制で月火木金に新患外来を行っています。事前に放射線治療医富高（内線5812）までご連絡くださいますようお願いいたします。

第19回 国立病院機構熊本医療センター医学学会開催のご案内

医療従事者であれば、どなたでもご参加できます。皆様のお越しをお待ちしております。

平成26年 1月18日 (土)

開会の辞

河野 文夫 (国立病院機構熊本医療センター院長)

8:50~9:00

一般演題 I 「救急医療・その他」

9:00~10:00

I-1 RA患者の肘関節周囲骨折に対する人工肘関節置換術 (TEA) の経験

整形外科 楊 拓也 福元哲也 高田興志 松下任彦 中馬東彦 前田 智
橋本伸朗

I-2 修正型電気けいれん療法後に軽躁状態を呈した一例

精神科 今井正城 川原一洋 山口達也 吉田庸子 橋本 聡 山下建昭
渡邊健次郎

I-3 国立病院機構熊本医療センターにおける周術期口腔機能管理の取り組みと課題

歯科・口腔外科 西野佑未子 片岡奈々美 原田佳奈 上田大介 森久美子 河野通直
中島 健

I-4 循環不全を呈した重症フグ中毒の一例

救命救急集中治療部 永利知佳子 江良 正 狩野亘平 山田 周 北田真己 櫻井聖大
原田正公 橋本 聡 橋本章子 木村文彦 高橋 毅

I-5 当院に搬送された心肺停止症例の検討～ウツタイン様式データに基づく検討～

救命救急集中治療部 櫻井聖大 江良 正 狩野亘平 山田 周 北田真己 橋本 聡
橋本章子 木村文彦 原田正公 高橋 毅

I-6 2012年度外傷データバンクのまとめ

救命救急集中治療部 原田正公 江良 正 狩野亘平 山田 周 北田真己 櫻井聖大
橋本 聡 橋本章子 木村文彦 高橋 毅
外科 森田圭介 松本克孝 宮成信友

一般演題Ⅱ 「外科・その他」

10:05~11:15

Ⅱ-1 多変量解析を用いた慢性硬膜下血腫の再発因子の検討

脳神経外科 武末吉広 大塚 忠弘 吉里公夫
 熊本大学大学院生命科学研究部脳神経外科学分野 倉津純一

Ⅱ-2 シリコンゲル注入後に異物肉芽腫となり、両側同時乳房再建を施行した1例

形成外科 東野哲志 深田理沙 万江由希子 大島秀男
 くまもと乳腺・胃腸外科病院 坂口 潮

Ⅱ-3 ラモトリギン使用中に発症した中毒疹の検討

皮膚科 久保陽介 緒方亜紀 牧野公治

Ⅱ-4 当院の男性不妊症外来の現況

泌尿器科 銘苅晋吾 岡 保伸 矢野大輔 脊川卓也 瀬下博志 陣内良映
 菊川浩明

Ⅱ-5 著明な視力改善が得られた外傷性視神経症の1例

眼科 宮崎洋子 筒井順一郎 近藤晶子

Ⅱ-6 特発性血胸に対して左鎖骨下動脈コイル塞栓を施行し救命し得た1例

放射線科 鳩野威明 田上昇太 岩下孝弥 根岸孝典 富高悦司 伊藤加奈子
 浅尾千秋 吉松俊治
 心臓血管外科¹ 産婦人科² 外科³ 岡本 実¹ 山本 直² 松本克孝³

Ⅱ-7 若年性特発性関節炎の2例

小児科 山元芽衣 水上智之 森永信吾 高木一孝

一般演題Ⅲ 「看護・薬剤」

11:20~12:30

Ⅲ-1 消化器外科開腹手術に使用する器械の細菌検出調査—閉創用器械セット導入に向けて—

看護部手術室 桑原理弥 八木愛加 長谷川珠美 清田喜代美

Ⅲ-2 当院における自死遺族対応チームの自殺三次予防の取り組み

看護部救命救急センター 山下美紅 樋口亜里沙 池田佳奈 米野絵美
 精神科¹ 救急科² 吉田庸子¹ 橋本 聡²

Ⅲ-3 当院 救急外来におけるトリアージ結果の検証

看護部救命救急センター 樋口亜里沙 森田 恵
 救急科 原田正公

Ⅲ-4 急性期救急病院における緩和ケア教育の成果と課題

看護部 安永浩子

Ⅲ-5 退院時のバリエーション分析における今後の課題と対策

地域医療連携室 田中富美子
看護部 川内サユリ 城 雪子 穎川俊也

Ⅲ-6 看護学生の統合実習における看護管理実習の学び

附属看護学校 坂本めぐみ 石原史絵 岸田佐智子

Ⅲ-7 ベバシズマブ投与患者における高血圧の発症因子の検討と対策

薬剤科 丸田基史 高田正温 平木洋一 真鍋健一

昼 食 (12:30~13:30)

一般演題Ⅳ 「事務・コメディカル」

13:30~14:40

Ⅳ-1 保険診療のルールに基づいた診療行為と適切な診療報酬請求の必要性

事務部企画課医事課 金高昌也

Ⅳ-2 患者待ち時間の把握と対策

事務部企画課医事課 外来係 佐伯勇輔

Ⅳ-3 当院におけるがんのリハビリテーションの現状と課題

リハビリテーション科 田所広太 榮 彩人

Ⅳ-4 白内障術後の術前予定屈折値と術後屈折値との比較

視能訓練士 山崎香奈
眼科 近藤晶子 筒井順一郎 宮崎洋子

Ⅳ-5 当院で経験した後天性血友病A 2症例

臨床検査科 大野剛史 宮本 望 藤崎 恵 濱口絵実 永田雅博 橋本龍之

Ⅳ-6 当院の外傷全身CT検査における撮影法の検討

診療放射線科 井手口大地 竹尾晃一 北口貴教 森田伸二 山本静成

Ⅳ-7 人工呼吸器アラームとナースコールとの連動システムの開発

臨床工学技士 田代博崇 北川 哉 新木信裕

一般演題Ⅴ 「消化器内科・外科系」

14:45~15:45

Ⅴ-1 超音波内視鏡下膵嚢胞ドレナージを施行した1例

消化器内科 持永崇恵 石井将太郎 古閑睦夫 本原利彦 尾上公浩 中田成紀
杉 和洋

Ⅴ-2 Fits-Hugh-Curtis症候群の4例

消化器内科

山下幾太郎 持永崇恵 古閑睦夫 本原利彦 石井将太郎 尾上公浩
中田成紀 杉 和洋

V-3 潰瘍性大腸炎が疑われ、治療中に肝膿瘍を発症した赤痢アメーバ感染症の1例

消化器内科

中島昌利 古閑睦夫 持永崇恵 本原利彦 石井将太郎 尾上公浩
中田成紀 杉 和洋

V-4 単孔式腹腔鏡手術を行った憩室内結石を伴うMeckel憩室の1例

外科

谷口あゆみ 富樫陽彦 北野雄希 大内繭子 藤木義敬 木下浩一
森田圭介 松本克孝 水元孝郎 宮成信友 芳賀克夫 片渕 茂

V-5 Flexible video scopeを用いた腹腔鏡下尿管管遺残症手術の1例

外科

横井 脩 森田圭介 北野雄希 大内繭子 藤木義敬 木下浩一
富樫陽彦 松本克孝 水元孝郎 宮成信友 芳賀克夫 片渕 茂

V-6 子宮捻転の2例

産婦人科

久木山直貴 山本 直 高木みか 永井隆司 西村 弘 三森寛幸

一般演題VI 「内科系」

15:50~16:50

VI-1 高齢のインスリノーマにDiazoxideが著効した一例

糖尿病・内分泌科

中島昌利 坂本和香奈 橋本章子 豊永哲至 東輝一朗

VI-2 肺胞出血をきたしたANCA関連血管炎に対してステロイドパルス療法が奏功した1例

腎臓内科

佐藤良太 坂梨 綾 中川輝政 三ヶ島歌織 梶原健吾 富田正郎

VI-3 ダウン症患者における成人初発TEL-AML1陽性急性リンパ性白血病の1例

血液内科

藤田良佑 岩永栄作 河北敏郎 井上佳子 榮 達智 原田奈穂子
日高道弘 清川哲志 河野文夫

VI-4 骨髄異形成症候群に対する臍帯血移植後に軽快した腸管ペーチェット病の一例

血液内科

渡辺美穂 河北敏郎 岩永栄作 井上佳子 榮 達智 原田奈穂子
日高道弘 清川哲志 河野文夫

VI-5 肺炎と右室梗塞を合併し、ショック・無尿状態となるも迅速な再還流療法と循環動態管理により救命できた超高齢急性心筋梗塞症の1例

循環器内科

片岡 文 石井正将 本多 剛 古賀英信 宮尾雄治 藤本和輝

VI-6 閃輝性暗点を呈した虚血性脳血管障害の2例

神経内科

小阪崇幸 渡邊哲也 幸崎弥之助 田北智裕 俵 哲

総評・閉会の辞

(国立病院機構熊本医療センター副院長)

16:50~ 17:00

「国際医療協力」

JICA集団研修第3回 “次の10年に向けてのAIDSの予防及び対策”

当院では蟻田功名誉院長が1988年に始められた国際医療協力、JICA集団研修が25年間続いています。その中でも本コースは、此処熊本で世界を牽引してきたレトロウイルス疾患の予防と対策をテーマにしており、毎年15名位の研修員が世界各国から集まる人気の企画です。30年前には死の病として人々を恐怖に陥れたHIV/AIDSは、治療方法の進歩に伴い慢性感染症とその合併症へと形を変えました。このような状況の中、新規感染者ゼロを目指し、我々は10年先に何が起ころのか、そしてどのような対策が必要になるのか、それぞれの国の現状を理解しながら、意見を交換しています。

今回はアフリカ（コンゴ民主共和国、ガーナ、レソト、リベリア、マラウイ、モザンビーク、タンザニア、ジンバブエ）、オセアニア（キリバス）、南米（ブラジル）、アジア（タイ）の12ヵ国から13名が来日し、熊本医療センター臨床研修棟に約3週間滞在しました。また初の試みとして、熊本で開催された第27回日本エイズ学会学術集会（満屋裕明会長）で我々のシンポジウムを企画していただき、研修員の代表が発表する機会を得ることができました。

皆、各国の厚生省や保健省のエリートです。各講義や見学研修の毎に必ず活発な質疑応答が続き、毎日時間を超過して



ヘリポートでの記念撮影

の討議が行われました。そして最終日には各国独自の予防法が提案され、対策の計画案を練り上げることができました。このような機会を与えてくださった河野院長始め皆様に感謝しております。そしてこれからも熊本を中心とした国際医療協力をサポートしていきたいと考えております。

（国際医療協力室 武本 重毅）

当院がJICA九州所長感謝状をいただきました

去る11月22日（金）に北九州市にあるJICA九州国際センターで所長感謝状贈呈式が開催されました。当院も感謝状をいただくことになり、私は院長先生の代理で出席しました。



感謝状贈呈式での記念撮影

八幡駅を出て、静かな並木道を10分ほど歩いていくと、左手に九州国際大学があり、外国人の若い方が何人も歩いていました。その反対側に3階建ての近代的な建物があり、そこがJICA九州国際センターでした。当日は多くの外国人の方が宿泊されており、この辺りは本当に国際色豊かなエリアです。

当日は4個人と4団体に感謝状が贈呈されました。受賞者は民間企業や大学の方ばかりで、地方で「おもてなし」を地道に実践されてきた方々でした。贈呈式に引き続き、懇親会が行われましたが、他の受賞者の方は皆生き生きとした表情で思いつきをされ、本当に外国人が好きでおもてなしをされていると実感しました。国際医療協力の喜びを改めて味わうとともに、今後もこの貴重なミッションを継続する重要性を感じた次第です。

（臨床研究部長 芳賀 克夫）

二の丸がんサロン企画

トーンチャイム Xmasコンサートを開催しました



がんサロンは、当事者やご家族が気軽に語り合い・分かち合う場であり、がん医療に対する意見交換や情報を得ることによって、当事者・ご家族自身が困難に対処していく力を養う場、また誰かの役に立つ感覚を獲得していく場です。

そんなサロンを多くの人たちに知ってもらいたいと、サロン参加者の方々からの一声により、トーンチャイム クリスマスコンサートが平成25年12月12日（木）に院内で開催されました。

昨年に引き続き演奏ボランティアで起こし頂いた「美齡重（ミレージュ）」様は、病院であることを忘れさせてくれるく



美齡重様による演奏の様子

らい、今年もすてきな音色とたくさんのクリスマスソングの演奏を届けて頂き、大盛況の中終わりました。

二の丸がんサロンは開設から2年9ヶ月が経ち、交流会を中心に患者さん・ご家族の方々の癒しの場・交流の場として月1回第1金曜日に開催されています。是非、多数のご参加をお待ちしております。

（医療ソーシャルワーカー 木下 良子）

研修医レポート

研修医

よしだ あさみ
吉田 麻美



こんにちは。研修医1年目の吉田麻美と申します。熊本大学を卒業後、4月より熊本医療センターにて研修させていただいています。はじめは業務上必要なことなど覚えなければならないことが多くあり、慣れるのに必死でしたが、半年以上経ち、ようやく自分で考えて診療に当たる余裕も出てきたように思えます。

現在は外科で研修させていただいていますが、毎日多くの手術に入らせていただき、実際の手術について、

また術後管理について学んでいます。緊急手術も多くあり、大変なこともあります。先生方の熱心な指導もあり、机上では学べない多くのことを吸収できていると実感しています。

また研修医は月に2～3回救急外来での日勤・夜勤がありますが、毎回、様々な症例を経験させていただいています。まだ経験や知識不足のため、診断に困ることもあります。上級医の先生方に相談しながら、毎回新たなことを学んでいます。また、2年目の先生方が優しくフォローして下さるため、私も約半年後にはそのような立場になれるだろうか、と不安な気持ちになりますが、残りの1年目の研修期間、少しずつ進歩していけるよう努力していきたいと思います。

この先もご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしく願いいたします。

研修医

わたなべ みほ
渡辺 美穂



こんにちは、研修医1年目の渡辺美穂と申します。宮崎大学医学部卒業後、4月から熊本医療センターで初期臨床研修を開始し、早いもので8ヵ月が経とうとしております。これまで糖尿病・代謝内分泌内科、救命救急部、血液内科、外科で研修をさせていただきました。

4月から研修させていただいた糖尿病・代謝内分泌内科では、はじめは電子カルテの使い方すら分からず、不安も大きかったですが、指導医の先生をはじめとする多くのスタッフの方々にサポートしていただきました。糖尿病の教育入院中の患者さんには糖尿病の合併症についてお話し、日々の血糖コントロールがいかに重要であるかについて理解していただけるよう心がけました。患者さんの治療に対する意欲を引き出すことは大変難しく、患者さんとのコミュニケーションの必要性を学びました。

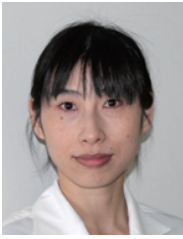
救命救急部では、重症患者さんを担当させていただくことが多く、急変する患者さんを目の前に自分の無力さを痛感する毎日でしたが、初期救急対応について学ぶことができました。

血液内科では、骨髄穿刺や採血の結果を見ながら、毎日の点滴・投薬を考え、患者さんに応じた治療計画を立てました。厳しいICを余儀なくされることもあり、医師として毅然とした態度で患者さんに向き合うことの必要性を感じました。しかし、その一方で、時には患者さんの思いを傾聴する指導医の先生の姿を見て、私自身も患者さんに寄り添うことのできる医師になりたいと強く感じました。

現在は外科で研修中ですが、縫合・カテーテル挿入・ドレーン交換などの手技を多く経験させていただいております。また、術前・術後の管理についても学ぶことが多く、充実した日々を送っております。

今後様々な科での研修・救急外来の当直を通じて、多くの経験を積み、医師としての礎を築いていけるよう日々精進していきたいです。ご迷惑をおかけすることも多々あると思いますが、今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しく願い致します。

新任職員紹介



皮膚科
さわだ りえ
澤田 利恵

平成25年12月より、国立病院機構熊本医療センター皮膚科で勤務させて頂くことになりました澤田利恵と申します。平成17年より熊本大学医学部附属病院で2年間卒後研修を行い、平成19年に皮膚科に入局いたしました。

ました。

その後、熊本大学医学部附属病院や熊本市市民病院、麻生飯塚病院、熊本赤十字病院などに勤務させて頂き、臨床を学んでまいりました。

症例を重ねるごとに、皮膚科疾患の奥深さ、自分の未熟さを痛感しております。

国立病院機構熊本医療センターは、救急疾患が多いと伺っております。

まだまだ未熟で、ご迷惑をおかけすることも多々あるかと思いますが、多くの症例を経験し、頑張りたいと思っています。ご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

研修のご案内

第148回 三木会（無料）

（糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会）
[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]
[日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]

日時▶平成26年1月16日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 「神経因性膀胱を伴った2型糖尿病の1例」

国立病院機構熊本医療センター糖尿病内分泌内科 坂本和香奈、橋本章子、高橋毅、豊永哲至、東輝一郎
なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター内科部長 東輝一郎 TEL 096-353-6501(代表)内線5705

第180回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）
[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成26年1月20日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

1. 胸部レントゲン読影
2. 持ち込み症例の検討

3. 症例検討「後天性血友病について」 国立病院機構熊本医療センター血液内科医長 原田奈穂子

4. ミニレクチャー「消化器の最近のトピックス」 国立病院機構熊本医療センター消化器内科 本原利彦
日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター研修部長 清川 哲志 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

第113回 総合症例検討会(CPC)

[日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]

日時▶平成26年1月22日(水)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

テーマ：『急激な上腹部痛』

(50歳代 男性)

臨床担当) 国立病院機構熊本医療センター消化器内科 持永 崇恵
病理担当) 国立病院機構熊本医療センター臨床研究部病理研究室長 村山 寿彦

「深夜3時急激な上腹部痛が出現し、近医受診して紹介を受けて当院救急外来受診となり、緊急入院となった。」

*臨床経過の詳細な検討と鑑別診断を行います。最後に病理よりマクロ、ミクロの所見と剖検診断が解説されます。通常のレクチャー(解説)の前に、馴染みの少ない疾患、病態は、その分野に関するミニレクチャーを予定しております。基本的知識を学んだ後で活発なディスカッションをお願い致します。どなたもお気軽にご参加下さい。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表)内線2630 096-353-3515(直通)

第38回 症状・疾患別シリーズ(会員制)

[日本医師会生涯教育講座2.5単位認定]

日時▶平成26年1月25日(土)15:00~17:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：天草郡市医師会立病院 総院長/熊本県医師会理事 植村 正三郎 先生

演題：「脳卒中予防」

1. 脳梗塞のリスク管理 国立病院機構熊本医療センター神経内科医長 田北 智裕
2. 抗血栓療法 国立病院機構熊本医療センター神経内科医長 幸崎弥之助
3. 未破裂脳動脈瘤 国立病院機構熊本医療センター脳神経外科医長 吉里 公夫
4. 無症候性内頸動脈狭窄 国立病院機構熊本医療センター脳神経外科部長 大塚 忠弘

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ(年会費10,000円)として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は1回会費2,000円で参加いただけます。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局

TEL 096-353-6501(代表)内線2630 096-353-3515(直通) FAX 096-352-5025(直通)

2014年 研修日程表 1月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1月	研修センターホール	研 修 室
1日(水)		
2日(木)		
3日(金)		
4日(土)		
5日(日)		
6日(月)		
7日(火)		
8日(水)		
9日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「皮膚の危機管理ー適切に皮膚科に引き継ぐためにー」 国立病院機構熊本医療センター皮膚科医長 牧野 公治	
10日(金)		16:00~18:00 熊本地区核医学技術懇話会(研2)
11日(土)		
12日(日)		
13日(月)		
14日(火)		
15日(水)		
16日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「緩和医療」 国立病院機構熊本医療センター血液内科医長 榮 達智 14:00~15:00 第10回 市民公開講座 「子宮がんと卵巣がんのお話」 国立病院機構熊本医療センター産婦人科部長 三森 寛幸	19:00~20:45 第148回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]
17日(金)		15:30~16:45 肝臓病教室(研2) 「肝がんについて」
18日(土)	第19回 国立病院機構熊本医療センター医学会	
19日(日)		
20日(月)	19:00~20:30 第180回 月曜会 [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]	
21日(火)	19:30~20:30 第32回 熊本摂食・嚥下リハビリテーションセミナー 「高次脳機能障害と摂食嚥下障害」 熊本保健科学大学・言語聴覚士 宮本 恵美	
22日(水)	平成25年度 院内感染対策研修会(国立病院機構) (第1日目) 19:00~20:30 第113回 総合症例検討会(CPC) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] 「急激な上腹部痛」	
23日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「急性腎不全の治療」 国立病院機構熊本医療センター腎臓内科部長 富田 正郎 平成25年度 院内感染対策研修会(国立病院機構) (第2日目) 18:30~20:00 日本臨床細胞学会熊本県支部研修会 <細胞診月例会・症例検討会>	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会(研2)
24日(金)	平成25年度 院内感染対策研修会(国立病院機構) (第3日目)	
25日(土)	15:00~17:30 第38回 症状・疾患別シリーズ 「脳卒中予防」 [日本医師会生涯教育講座2.5単位認定] 座長 天草都市医師会立病院 総院長/熊本県医師会理事 植村正三郎 1. 脳梗塞のリスク管理 国立病院機構熊本医療センター神経内科医長 田北 智裕 2. 抗血栓療法 国立病院機構熊本医療センター神経内科医長 幸崎弥之助 3. 未破裂脳動脈瘤 国立病院機構熊本医療センター脳神経外科医長 吉里 公夫 4. 無症候性内頸動脈狭窄 国立病院機構熊本医療センター脳神経外科部長 大塚 忠弘	
26日(日)		
27日(月)		
28日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	19:00~21:00 小児科火曜会(研1)
29日(水)	18:00~19:30 第84回 国立病院機構熊本医療センター クリティカルバス研究会(公開)	
30日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「脳梗塞の治療」 国立病院機構熊本医療センター神経内科医長 幸崎弥之助	
31日(金)		

研1~3 2階研修室1~3室

※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ(<http://www.nho-kumamoto.jp/index.html>)をご参照ください。

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)